

(件名) 岩盤力学委員会 企画小委員会 (第8回)

日 時： 平成 2004 年 8 月 31 日 (火) 10 : 30 ~ 12 : 30

場 所： 土木会館 A会議室

出席者：(委員長) 市川 (委員) 太田, 大津, 川崎, 武内, 高橋

議 題： 1) ニュースレターNo. 5 の編集, No. 6 の打合せ

2) 岩盤関係の学会 (委員会) ホームページに関する調整会議について

3) 今後の研究小委員会の方向性について

活動状況：

- 1) ニュースレターNo. 5 (9 月初旬に発信予定) のドラフト版をもとに, 修正・追加等について議論した。今後, 各委員の分担で修正・追加作成し高橋幹事に送付後, 最終案の確認を経て発信する。主な決定事項は以下の通り。
 - ・ 巻頭言の作成を武内委員に依頼
 - ・ トピックスで既に準備の整った Giancarlo Gioda 氏らの「Finite Element Analysis of Geotechnical Rehabilitation Works」を第 5 号に追加し, 計 3 件を掲載する。
 - ・ 「書籍等の紹介」のうち「リスクおよびマネジメント関係の教科書紹介」については, 紙面の量を考慮し次回の掲載にまわす。
 - ・ 「会議予定」には海外の主要会議 (2 件) をさらに追加する。
 - ・ 「法人会員のページ」は東京電力に依頼する。
- 2) 岩盤関係の学会 (委員会) ホームページに関する調整会議について, 会議の趣旨と議論, 説明すべき事項及び RockNet の作成中の HP 案について青木委員の代理で出席する高橋幹事から説明がなされた。主な決定事項は以下のとおり。
 - ・ 岩の力学連合会が作成している「岩の力学ニュース」の他に当委員会のニュースレターが存在することを説明。
- 3) 今後の研究小委員会の方向性について議論し, 以下のような意見が出された。今後, さらに具体化に向けて検討を進めることとなった。
 - ・ 社会的に意味のあるもの, 社会に貢献できるものをテーマに考えていく必要がある。例えば, 岩盤の技術で継承すべきものを考えた場合, 高レベル放射性廃棄物の地層処分における処分場建設では, 地下 300 以深に数百 km のトンネルを掘削することになるが, その建設は約 20 年以上先の話となる。今後, 高度な技術を要するトンネル工事は国内ではなくなっていくことを考えると, それまで坑夫らの掘削技術をどのように維持・継承するのかが非常に重要な問題となる。現在のトンネル技術は鉱山の掘削技術から移転されてきた点が大いだが, 今後, 現在のトンネル技術を継承するプロジェクトが乏しいことが懸念される。
 - ・ 巨大プロジェクトがなくなりつつあるとは言え岩盤工学の課題はまだまだ残されている。例えば, 花崗岩などでも割れ目の端部において, 局所的な応力の集中にともなう岩石と水との化学的な反応により割れ目が進展していく現象が見られる。このようなミクロ-マクロ現象など検討すべきことがまだまだある。そういう課題を取り上げながら岩盤工学の分野を活性化していくことが重要ではないだろうか。
- 4) 次回の企画小委員会は 2004 年 11 月 4 日 (木) 13 : 00 ~ 15 : 00 開催 (B 会議室)

以上